

## 第1回 霧島リノベーションまちづくり戦略会議 2020 議事録

日 時 令和2年9月25日(金) 19:00~21:20

場 所 きりしま国分山形屋

会議参加

須部貴之、大島芳彦、増田泰博、有村健弘、松本一孝、大西正将、徳永功一郎、奥野貴大、白水梨恵、日永田剛、リノベリング(酒井)中重市長、山口副市長、市職員(谷口部長、池田課長、梶G長、西村サブリーダー、山田、勘場、宮之原)

タスクフォース：有馬(都市計画課)、藤田(地域政策課)、堀内(財産管理課)、橋内(建築指導課)

参加者数 計121名(一般参加73名、市議会議員5名、委員等11名、市職員32名)

**須部)** 主催者代表ということで今日は市長である中重真一様に来ていただいております。

**市長)** みなさんこんばんは。本日は霧島リノベーションまちづくり戦略会議を開催いたしましたところ、金曜日の夜なのでどれだけ集まっていたかと思っていたんですけどもたくさんの方に集まっていただきまして、ありがとうございます。これからのまちづくりを考えるうえで、ないものを作るのではなく、あるものを有効活用するというのは非常に大事だと思います。まちづくりだけではないですけれども。この後柳田支店長あいさついただきますが、柳田支店長ともお話ししましたが、このスペースでこういった形でプロジェクター使って、このスペースがこんな生かされ方をするのか。ある意味リノベーションなのかなと。オリンピックがあるときはパブリックビューイングできるのかなとふと思いました。ぜひ今日はゲストの大島さん、プレゼンター須部さん、委員の8人の皆さんを中心に議論していただくわけですがテーマが霧島を一緒に作りたいというテーマです。ぜひ、皆さんの心が一つになってこの戦略会議が有意義なものになるようによろしくお願いいたします。



**須部)** ありがとうございます。ではこの会場を快く貸して下さった山形屋代表取締役専務柳田様、皆様拍手でお出迎えください。

**柳田)** みなさんこんばんは。先ほど市長からあったように、うちの壁がこんなことになるとは思ってもみませんでした。この場所がいつも空いている、使い勝手が悪い。そんな考えし

がありませんでした。中心部としても空き商店空き家が多い道路になっていますし、山形屋もここに移転して14年たちました。前がパークプラザのところにありましたが、せっかくこちらにきて広がって中心部にあるんですがなかなか人に来ていただけない状況でございます。一つの店舗で人を集めるのは厳しい状況で、私どもも年一回北海道物産展だけはみなさんにきていただいております。一年間売上を上げる努力はできないのでこういうところを使って店としてもがんばりたいし、みなさんと地域の方々と一緒になって街を盛り上げていきたい。鹿児島で二番目に大きな都市ですので、まだまだ人口も増えていくだろうし特に中心部がマンション建ったりしていますので我々も頑張ります。みなさんもこういう場所をこういう風に使いたいというのがあればご連絡いただければ使っていただきたいと思っております。この会議が盛況で終わるようにみなさんよろしく願いたします。



須部) ありがとうございます。いいですか、ここ今後使っても。ほんとに使う人たちいますよ。ぜひ今後も使わせていただければと思います。続きましていよいよ戦略会議を始めていきたいと思っております。前半は霧島市の現状とこれからということで宮之原さんからご説明いただいて、そのあと東京からリノベーションまちづくりをしている大島さんのお話をいただきます。そのあと私からリノベーションスクールという北九州から発端であります、鹿児島市内でも開催したり鹿屋でも開催したり。わたしもそこで参加しているんですが鹿児島の事例をご紹介します。後半で委員のご紹介をさせていただいてみなさんからの質問感想を共有させていただきたいと思っております。ではさっそく宮之原さんおねがいします。

宮之原) みなさんこんばんは。本日は私のほうから霧島市がなぜリノベーションまちづくりに取り組むのかご説明させていただきます。このリノベーションまちづくりの事業ですが昨年度から始まっております。3回講演会開催して1回目はニシムラヒロアキさんという佐賀の街でにぎわいを取り戻すという事業された方から講演いただきました。西村さんに霧島市みていただいたんですが、やはり駐車場が多いという意見をいただきました。講演の中で事前に撮影いただいた、駐車場が緑であふれた、町中に芝生が現れる写真をみせていただきました。今あるものを最大に活用し、こうなったら楽しいと思えるようなことを右脳でイメージして実践していただくことが必要という講演をいただきました。二回目は青木さんを招き、当事者の市民が行政と協力して公共を育てていくことが必要ですと。いまできることを今いる人でやる。まちの日常づくりをしていきましょうということでお話をいただきました。3回目、大島さんに講演いただきました。空きビルを借りて開催しました。冬だったんですが今考えられないような密な状態で開催しました。大島さんからこれからのまちづくりはあなたでなければ、ここでなければ、いまでなければという圧倒的当事者が必要という講演をいただきました。ないものねだりの消費者のまちからあるものみっけの



当事者のまちに。建物だけでなくまちをリノベーションしていきましょうということでお話いただいています。今回、去年は3回の講演会を通じてまちづくりとはどういうものかというのを皆さんに知っていただく啓発の場として実施してまいりました。でもこの講演会、3回開いただけではまちは変わりません。この話聞いて理解しただけで終わりののか、実際に霧島市にあなたが楽しいと

思えることを右脳でイメージして霧島市で今できることを考え、実践していきましょう、という場が戦略会議の大事なところ。みなさんの動きがそれぞれ波及してリノベーションで再び革新を起こしましょうということこの場を開かせていただいています。今回、初めて戦略会議ということこの場を使って開催することになりました。霧島を一緒に作りたい



ということ。チラシを作って多くの方に来ていただきました。チラシの裏に問題提起となることを載せさせていただきました。実際霧島市の人口は減少している状況で、地区別の人口ですが国分隼人地区微増ですがのびています。中山間地域のほうはすごいスピードで人口が減少しています。若者の数もどんどん減ってきています。これにプラス高齢者も増えていく状況で、街中から若者が消えていく状況が増えているような形が続いています。また、霧島市内の空き店舗率としては 23%前後 4 軒に 1 つは空き家になっている状態という風になっています。これに合わせてエリアの地価なんです。青とオレンジの線が国分の地価になっています。赤印で示しているところですが、国分市合併前の中心市街地の活性化計画でパークプラザが完成したりといった行政の絡みもあって地価が落ち着いていた時期があったんですが、平成 20 年から 30 年までの 10 年間で 40% も地価が下落している状況です。この状況を俯瞰的にとらえるのかチャンスととらえるのか、人それぞれだと思いますが意識の改革というか、ないものはなく、なくなるものはなくなるということ。今あるものを見つけていけないといけないという発想の転換をしていけないといけないと思います。チラシにあります、霧島に〇〇がある～というところ私は一つ余白があるという文字を考えてみました。先ほど言った空き店舗がたくさんあるということは空いているスペースがたくさんあるということで、こういう場もそうなんです。可能性を秘めている場所、そこでどういった事業を行うかが重要だと思っています。空き店舗をポジティブにとらえて国分エリアで空き店舗・空間がどれくらいあるか考えたところまだ少し多いという風に考えています。霧島市の中心地に空いている空間がかなりある状況で空き店舗も含め、商業施設の空き空間、広場、道路を含めて空いている場所がたくさんあります。そういった空いている空間を自然、歴史、人、食、そういったものをつなげていく。みなさん住んでいる

方以外と気づいてらっしゃらないですが霧島市、外からうらやましがられます。だけど今住んでいる方は気づいていない。今ある資源を生かすっていうのがまちづくりになります。私の中でうれしかったのが第一回目西村さんに講演いただいて街中にたくさんある駐車場をみてひと月三千円で借りられるならみんなで借りて、コーヒーを飲める空間にしたほうがいい、一日に数百円しか生まない駐車場より一杯数百円生めるコーヒーのほうが絶対いいとおもうといわれました。そしたら1か月後実際に街中でコーヒーを駐車場で売の方が現れました。今回委員に選ばれた奥野さんという方が国分駅の前にある美容室の駐車場を借りて移動販売のコーヒーをされています。この二人が出会わなかったらこの風景は生まれていない。美容室っていう形態上、朝10時まではお客さん来ないし月曜日はお休みということで空いている時間・空間を活用してコーヒーを販売している。ここだけに飽き足りず、この場所で。私もこの写真を見なかったらここでやろうとは思いませんでした。趣味のアウトドアテントを張って買い物をした人がここでくつろいでひとときを過ごす、まちづくりではないと思いますが、楽しいと思ったことをやられています。併せて霧島市のキッチンカーの仲間を集めて、おまつり広場の駐車場になりますがここでも販売をされています。下井海岸でも。見慣れた風景かもしれないけど今ある風景がキッチンカーがあることで変わっていく。私が言いたいのは、一人の若者、私より年下なんですけど若者の起業がまちの風景を変えているんだなと思いました。一人のチャレンジを行政職員としても応援していきたいと思っています。なぜ今霧島市でリノベーションに取り組むのか、霧島市は一市六町があつまって平成17年に合併して一つのまちとして誕生しました。まだ15歳です。まだ中学校3年生くらい。それぞれのエリアで魅力があってその潜在的資源を引き出すのも埋もれたままにするのもあなたがチャレンジするか否かだと思っています。みなさまのチャレンジが、一歩が小さくてもそれがいくつも重なっていけば20歳を迎えた霧島市の風景は大きく変わっていると思います。霧島市はまだ成長途中です。霧島市の未来はあなたが育てていく必要があるんじゃないかと思っています。最後ですが、この会議を通して皆様のチャレンジとかやりたいこと、楽しいと思えることをどんどん膨らませていただいてその一歩を踏み出す。そうすることで未来の霧島市をわくわくさせていきたいなと思っています。以上です。

須部) 宮之原さんありがとうございます。質問とか一番最後にします。続いて、お待たせしました、各地行ってらっしゃるお忙しい方です。おととしくらいですかねNHKのプロフェッショナルでられたりとかリノベーションまちづくりという取り組みをリノベーションまちづくりという言葉ができる前から行政の方と10年以上されている方です。私の兄貴分でもある大島さんです。30分くらい大島さんが取り組んできた、いま取り組んでいる全国のリノベーションまちづくりの事例をお伝えいただければと思います。

大島) みなさんこんばんは。リノベーションまちづくりというので数えたら76の自治体の方と取り組ませていただいています。残念ながらコロナの流れの中で今年度のリノベーションまちづくりといったものの意見を交わす場が設けられていなかった。そのなかで霧島市のみなさんと屋外だからできることではあるんですが、市民のみなさんの関心の高さがうかがえますね。全国では指をくわえて羨ましがっていると思います。私のほうからは、リノベーションまちづくりとはなんだろうというところで去年のおさらいからさせていただきます。空き家問題、空き家に限らず余白の問題があります。本当に問題なんでしょうかというところなんです、問題と思っていないんじゃないでしょうか？空き家というのはワクワクしちゃうもの。空き家は活用を待っているんだと、資源だと思うと楽しくなってくるんですね。日本の住宅の中で空き家が比較されるんですが、空き家とされている住宅の資産は500兆円くらいある。日本の国家予算の倍くらいある。情けないと思う人もいるかもしれませんが実は、それだけのマーケットだと思うとワクワクしてきますね。いろんな産業にしていくためにはどうしたらいいのか。おせっかいになってください。それから妄想家になってください。不動産というのは権利というのを皆さん考えられますよね。そういうのが日本にはあってどこかに空き家があっても人さまのものになってしまうんですね。宇沢先生という方が空き家は社会的共通資本とおっしゃいましたそれはなにかという社会全体にとって共通の資産として社会的に運営されるもの、つまり自然環境なんかがそうですね。このなかで社会的共通資本の種類形態はたとえそれが私有であっても社会全体で共有の財産として社会的に運営されるものであってもあたる。つまり空き家というのは社会的共通資本に分類されるような気がします。さっき宮之原さんのスライドででしたが、リノベとリフォームの違いはここにあります。リフォームはもう一度かたちにしてやろうということなんです。そもそもまちにどういふ変化が起きているのかそういう視点が大事です。そうなんです。リフォームというのは俯瞰する視点のなかで経営とかマネジメントとしての視点がある。そのなかの一つの手段としてリフォームがあります。これからリノベーションの時代だというのは間違っています。リノベーションというまち全体を俯瞰する視点の中で何をやるか、その一つがリフォームなんです。リノベーションというと再開発と対するものなんじゃないかとおもわれますが、場合によっては再開発もリノベーションのひとつかもしれない。それくらいの大きな心をもって臨みましょうということなんです。みなさん物件物件とよく口にされます。その方に物件の価値ってなんですかと聞くとばらばらのことを言います。家探ししている人は暮らしの価値だって言いますよね。不動産に聞いたら商品価値って言います。銀行の人は担保価値っていうんです。ばらばらです。このディスコミュニケーションが空き空間の一貫性の欠如になりその価値を最大化できなくなる。そう





いう問題なんです。衣食住の中で衣と食は畑からとってきたものを料理人が料理して高いお皿に出したらそれは高いものになりますよね。料理人が素晴らしかったから、デザイナーが素晴らしかったから高いわけじゃないですよ。生産から流通からプロモーションからいろんなことにかかわる方がいて同じ価値、方向、ビジョンに向かって進んでいるから価値が最大限に

なる。でも不動産はできてないです。私が思うに、コミュニケーションももっととろうよということなんです。さっき言ったように、おれのものだとか言ってるうちは負のエネルギーなんです。そこに関係する人たちを再編集、リデザインすることが大事です。ぼくはこれがリノベーションオブキリシマだと思ふものがあります。ここがどこかわかる人いると思いますが、ぼくはここで何がリノベーションかといいますと塀ですよ。これねブロック塀ですよ。クレープと手羽先皆さん好きですよ。それが素晴らしいのはもちろんなんですがそれ以上に僕が感動したのはこの道路と敷地の境界線にあったブロック塀に木の板一枚乗っけて人が座って食べてる様ですよ。単なる塀でしかなかった、こっちくんという象徴なんです。その上に板のっけて食べさせるだけでドラマが生まれるんですね。素晴らしいリノベーションだと思います。境界を作った負の遺産を生かしている。これがリノベーション。霧島のまちですでに営まれているんですね。はい。複雑形という言葉があります。単純系の反対なんです。複雑系っていうのは社会、自然界そのものです。ひとりで世界は成り立っていないわけです。物件じゃなくて物語って言いました。物件っていうのは塀なんです。リノベーションまちづくりの中でよく語られる言葉があります。敷地に価値なし、地域に価値あり。これを不動産に言うと怒られるんですが事実なんです。一生懸命自分が守っていても気が付いたらまちから人がいなくなるんですから、そしたら価値なんかないんですね。自分のことばかり考えると守っていた権利まで底が抜けるわけです。つまり不動産価値の本質、町の価値の本質これは当然のごとく地域にあるということなんです。町というのは



人間のドラマがあり複雑系ということなんです。かつての日本の社会というのは、私と公、共というのがうまくまざって成立していたんです。ところがこれが成長してくると近代化の過程で私有財産が認められたり線を引いたりして豊かさだという時代があったわけです。これをシステムで補えばよかったんですが、社会保障、医療が崩壊しようとしている。そんな時に考えられるべきはその関係性、公共、パブリックですね。おもしろいですね、ここ山形屋さんの土地だからみんな使えないと思っていたけど実は民が担う公共なんです。ここがリデザインされている姿があります。線になってしまった境界がいろんなところに



あります。ハイブロック塀という名前にしますが、わずか15cmの線の上に面ができてアクティビティが生まれている。リノベーションは関係性のリデザインです。そうなるリノベーションという言葉はまちづくりと親和性が高い。リフォームまちづくりはないんですよ。一生懸命きれいにしたところでまちはよくなる。リノベーションまちづくりとは空間的資源のみならず

潜在的にまちに存在する人的・文化的・環境的・歴史的資源を発掘・再編集してあらたな地域的価値を創造する。リノベーションまちづくりという役所がやってくれるものなんじゃないか、与えてくれるんじゃないかと。そういう時代ではもうないんです。人口が減少すれば変革せざるを得ない。そうなる民間主導でマッチできることそこからやっぺいこうというまちづくりです。ないものねだりの消費者のためのまちづくりから今の時代はあるものみつけの当事者たちによるまちづくりということに代わってきています。地方創生なんて言いますが、持続可能であることが大事ですし消費されない誇りあるまちを見つけ出すか、civic prideが大事。そのためにどうしたらいいか。共感が必要なんですね。ひとりだとどうしようもないですが、誰かがビジョンを語っていいんです。それに対して共感する人が集まります。今日のこの状況をみたらこれに共感する人が現れます。ここをもっと活用されるべき場ということを共有してるんだけどどんどん噂広まりますから半年後には大変なことになってると思うんですが、山形屋のコーナーはまちにとってこういう場であるべきだったというビジョンでもあるんですね。霧島市全体のビジョンというのはなかなか出しづらい。でもエリアのビジョンは出せますよ。これは近未来のビジョンでもあります。共感が生まれます、この共感こそが消費者を当事者にかえるチャンスであり、あるべきものなんですね。共感を生むためのビジョンを待ってるんじゃなくて自分で作ってみようというのがこの戦略会議でもあるし、リノベーションまちづくりというをみなさんに知っていた



だきたいところなんです、あなたでなければ、ここでなければ、いまでなければというこの3点においてなにが他と違うのかというところを整理してほしい。整理すると見えてきます。あなたでなくても、ここでなくても、いまでなくても、という逆の言い方をすると悪く聞こえるんですが、成長する時代において、でなくてものほうが成長のビジョンであったんですよ。だって夜中の12時でもおにぎり食べたいじゃないですか。北海道であろうが、沖縄であろうが、ほしいものを手に入れたいのが日常です。あなたでなくてもいいものが手に入る。これは豊かさを与えました。一方で副作用があるんです。選ばれないものができた。選ばれないものと選ばれるものにもものすごく差ができた。そして選ばれないまちはどうし

たらいいのか。あなたでなければ、ここでなければ、いまでなければということを考えることこそが答えなんです。人、場所、時間の価値ということなんです。キャストは人、シーンは舞台装置、シナリオは時間の流れを生む要素。それらは物語なんです。関係性をリデザインしようということなんです。まさに物語が必要ということなんです。お前の言うことは意味が分からんとよく怒られるじゃないですか。これは成長時代の怒られ方なんです。お前は絵に描いた餅なんだからやることやれって言われるんですよ。こういうことを言う上司はビジョンがないんです。だけど今は絵に描いた餅をおいしそうに描ける人が勝つんですよ。絵に描いた餅はビジョンです。霧島の可能性大いにあると思います。このマンション群10年まえ全然違う景色だったろうなと。実際こういうこと全国で起きています。例えば鹿児島市との関係であったりとか。先週僕は飯塚市にいました。福岡博多の中心部から40分かけていく場所です。その飯塚にもマンションが建っています。東京大阪にも40分かけていくようなところにマンションが建つんですよ。それと同じことが起きているんだけど、そのなかで何が足りないか。人口動態みたら若い人増えているはずですが、コミュニケーションが足りないんですよ。古くからの商店街の方年配の方と新しい住民がどれだけコミュニケーションが取れているか。そのまちでうまれる子ども達はそこが故郷になります。そこに関係性を作っていこうじゃないかと。



そんなことで事例をちょこっと紹介します。神奈川の事例なんですけど、東京の私鉄から40分行けば郊外あるんですが、ここ多摩ニュータウンというところがあります。上から見た姿見ていただくと鉄道が一本こうなっているんですね、どういことかという作られたときはロードサイドのモールなんてない時代です。この駅前には鉄道会社がやっているモールがあったんですね。だけどロードサイドができることによってだめになるんです。駅前こんな状態に。まちは高齢化が進みました。駅前こんな状態。商業もない。住みたいと思わないですよ。これ放置したら人口は少なくなるし高齢化は進む。こんなこと東京といえ

どこなとこだらけです。東京でも選ばれるまち選ばれないまちできちゃうんです。駅前の醜態をみてここにこんなことやってらいいんじゃないかというのが、この場所だけの物語があるはずだと。その物語は団塊世代より上の人たち。高齢化といってもまだまだ元気なんです。そういう方がどういことをしたいかリタイアしたあと経験を生かしてもう一回何かしたい。そう思っ



てる方いっぱいいらっしゃる。ここちゃんとやってもらわないと医療費とか介護とかお金がかかります。それからちょこちょこミニ開発が進んでいきます。子育て世代にもいるんですよ。大量にはいないけど。ここで大事なものはベッドタウンというのはかつて暮らすっていう機能だけだったんです。今はコロナが後押ししていますけど暮らしている場所に多様な生活の機能が必要だということにみんな気づき始めたんです。働き方かわればそういうのも当然なんです。ベッドタウンなんて言葉気持ち悪いなって今思いますよね。そこには働くとか子育て、遊ぶなんてことが含まれてくるわけです。この時のビジョンは駅前に巣を作ろうじゃないかというものです。巣って言うとインキュベーションオフィスってきいたことありますか。卵をふ化させるという意味なんですけど、起業家たちを育てるシェアオフィスですね。そういう意味での巣であったり子育てする巣、そういう巣っていう要素をもったものということでさっきの駅前の何にもない空き空間に鉄道会社に提案して実現できたものがこれです。コワーキングオフィスなんです。こんな駅前に緑を再生してそこに木造の平屋があって不思議な世界でしょ。これがまさか3、40年使おうと思ってないんです。短期利用。15から20年場合によってはより短いスパンで。その間にさっきのなにもない砂利の空間を放置していたらどうなるかというところとどンドン地域が衰退するだけなんです。ほったらかしにするんじゃなく今できることをしよう。周りに住んでいる高齢者もやりたいこといっぱいあるはずだしお母さんたちもやりたいことがあるはず。だけどコワーキングっていうのは一緒に価値観共有できないと同じ仕事しようと思わないじゃないですか。だったら郊外の山に近い場合によってはBBQとかできるコワーキングがあったらそもそも共感ですよ。夕日がきれいだから仕事はそこそこにして肉でも食って打合せしましょうとかね、そんな話になるわけです。郊外、地方都市は然るべき人が集まっていないところの付近はいろんな価値観の共有を見出しやすいところなんじゃないかと思います。今後コワーキングといいながら自分の生業としてチャレンジするそんなスペースもあります。一坪二坪くらいの自分がやりたいことを実現できるスペースがあるわけなんですけれども。さっきの殺伐した駅前に週末ごとに人が集まるようになった。みんな見えてなかっただけなんです。これ駅前だけど焚火しているんです。こんな焚火ができる場所郊外じゃなければありえないわけです。近所に住んでいる子育てしているお母さんが、昼間の時間を利用してオーリーブオイルのショップやってますとか。自分の家のリビングでフラワーアレンジの先生をしてるけど人気があってリビングを持って余してるということで駅前にそういうところあったらいいなって使ったりね。お父さんたちも家の中で仕事したら気が滅入るから同じ人に会

えてよかったとか。そんな人がここに参加してくれている。周辺の農家さんであったり働いてこそ出しているお母さんとかリタイアした人とか。みなさん接点がなかっただけなんです。こういう場所があるとみんないきいきしてくる。リノベーションスクールってリノベーションまちづくりのアクセラレータなんです。どういうことやるかということと実際にまち



に存在する空き店舗を使ってそのまちを元気にする仕事を考えようというのがリノベーションスクールです。実際に事業化するというのがみそです。小倉から始めた活動なんですけどこんな活動になっています。霧島市というまちで新しい住人と古い住人の接点をどうやってつくるかということとここでいいと思っているものがあって。これは東京の豊島区です。こういうシャッター街が生まれているんですよ。シャッター街という点でいうと高齢化率が50%を超えているような場所です。店舗が併用住宅で下で商売して上で住んでいるような人が高齢化していつか、でも後を継ぐ人がいない。東京の場合局所的なことですがずっと一人暮らしのお年寄りが多い。単身でずっとやってきた50年前そのまま暮らしている方が多い。椎名町というところなんですけれどもこういうアパートがいっぱいあるんです。これはトキワ荘です。漫画家の駆け出しを支えたアパートです。漫画家が20代のころここで未来を語ってたわけです。そんな人たちがそのまま高齢になっている。そんなまちがどうなるかということと商店街が空き店舗になったり動けなくなるお年寄りがいたりして空き家が出てきて。そういうところにマンションができる。若い世代も増えてマンションに住むけども商店街との交流がない。こんなことが霧島でも起きているんじゃないかと思うんです。でも商店街の方たちまだまだ最後の力振り絞っています。あと5年10年するとこの方たちがもう無理だとなってしまいます。そんなときにこのまちに元気なお年寄りがいるうちに接点を持つのが大事なんじゃないかと思うわけなんです。ここのまちはこういった世代がつながっていないんですよ。つなぐデザインをしよう。ミシンを置いたカフェを作ろうって素人っぽいことを思いついたわけです。なぜミシンかっていうと子育て世代ミシンいろいろ使いたいけど持ってないし使い方よくわからない。ミシンを置いて使えますよってしたら高齢の方が教えに来てくれる。これだけだとビジネスにならない。その中に商店街の魅力を滞在する価値だと捉える旅人が増えているから、宿をやったり複合施設をデザインするんですね。内部にミシンがあるからお母さんたちが来てくれます。商店街の先に小学校があるんですけど、小学校帰りのこどもはお母さんがミシン使ってるからランドセル放り出して宿題やったりするんですね。そこでまたお母さんたちが教えてくれる。子供とお母さんと高齢者の交流が生まれるんですね。多くの人たちがかかわってくるんだけど、お母さんたちコミュニケーションとっていなかったのだからこういう場所があることによってうちの子はどうで、って話になって仲良くなる。そうするとミシンを置く以上の価値の能動性が生まれる。パンつくりの上手なお母さんがいたらこの人に教えてもらいたいとか生まれたり。そうなってくるとコミュニケーションの価値というのはこれは最大の地域の価値ですね。外国



の方は今インバウンド鈍いところあるけど関わる方が旅人としても関わるようになると。こんな姿が日常になってきています。アクセサリを作るのが上手なお母さんもこういうアクセサリをご高齢の方が買ってくれるんですよ。そういう交流が生まれると。これは福祉だと思ったんですよ。参加可能な場を作っているということなんですね。今まで家にこもっていた方もいきいきとしてくる。商店街も元気になってくるわけですね。福祉は日本が抱える最大の課題になります。リノベーションというのは参加可能な場を作ることが解決策なんですね。リノベーションまちづくりは都市程度のコンセプトなんだと思うわけです。多くの方が参加可能な場づくりをしていこうということです。ありがとうございました。

**須部)** 大島さんありがとうございました。皆さんも少し感想とかを話したそうなので、1分くらいお隣さん同士で大島さん宮之原さんの話を聞いてどう思われたかとか、どう感じたかみたいなことを話をしてみてください。話したいことありましたら挙手をお願いします。

**和田)** とても素晴らしいお話で心臓がバクバクしています。今、地域おこしに興味がありまして移住支援を来年以降していこうと思っています。そういった考えがあったとしてもいろんな人の手助けが必要です。自分の思いをどういう風に具現化していく、人に伝えていくときに意識していることを教えてください。

**大島)** 共有できるビジョンをどう作るかなんですけれども、ビジョンと言うとうさんくさく聞こえるけどそれじゃダメなんです。できるかぎりわかりやすい言葉でビジョンを作ろうじゃないかということだと思います。そういうことだったら私これできるよと言いたくなるビジョンをつくろうじゃないですか。それが例えばこのまちは子育てに優しいまちをつくりますだったらどうですか。意味わからないですね。それは結果なんですよ。にぎわいの

あるまちをつくりましょう、これも結果なんです。どうやってというところが大事なんですよ。どうやってというところにはいろんな方法があるんですよ。子育て一つとってみても、どろんこの子育てもいい。だけどちゃんと勉強して、お行儀良くしなさいという子育てもあるんですね。その場に同時にいたら共感ってうまれないじゃないですか。ご自身が感じられる、場合によっては人におかしいよって言われてもいいかもしれない。そんな自分なりのビジョンを作ってみてください。そうすると仲間ができます。独りぼっちはつらいですよ。仲間が一人いるだけで力が全然違います。二人三人になってくるとねずみ算的に増えていくんですよ。そんなことを考えてやっていただくといいんじゃないですかね。

和田) ありがとうございます。

須部) 次の方。

松枝) 霧島市歴39年の松枝といいます。畜産をしています。息子が通っている学校のPTA会長をしたり自治会にも参加しているんですけど、子供ができてからまちづくり、自分が生まれ育ったまちだし、子どもたちにどういったまちを残せるかなと思っていると事業を絡めながら学んだんですけど。自分たちが育った環境だったり人とのつながりを思ってそういった活動をさせてもらってこれからのおもしろいアイデアが浮かんでいるのでぜひみなさんでやっていきたいなという思いがあるんですけど。その中でひとつ、いま自治会とか加入されない方がいたり子ども会に参加されない方がいらっしやったり在り方がどうなっているのかなと。大島さんが言われたようなコワーキングスペースみたいなのができればいいのになと思いついて聞いていたんですけど、地域の今までであったものが今後どうなっていったらうまく機能していくのかなとおもって質問してみました。



大島) 自治会、子ども会入ってくれる人がいなくなるというのは全国でも聞きます。新しい住人の方にはハードルが高いですよ。排他的な存在にも見えかねない。きっかけが必要だと思うんです。きっかけのデザインをされるといいと思います。パイプ椅子並べて自治会の説明会しますって言われたらいやですよ。イベントをしてみたり、いろんな方法があると思うんです。よくコミュニティとかコミュニケーション大事だって聞くじゃないですか。ほとんどの方は面倒だと思っている、これが現実。でも考えていることは必要だと思っている。この差がすごい。どう解消するかがポイントだと思いついて、例えばまちなかにベンチを置くだけで解決されることがある。ベンチというのは人を滞留させる。通り過ぎる人同士は挨拶もしないけど、座ってて目が合う人同士は会釈くらいするんですね。そこにコーヒーなんかあればもっと滞在してくれる。挨拶交わすようになるだけで全然違う。顔見知りになるといろんなことを知る要素が生まれてくる。自治会ってそういうことしてたんですか、私

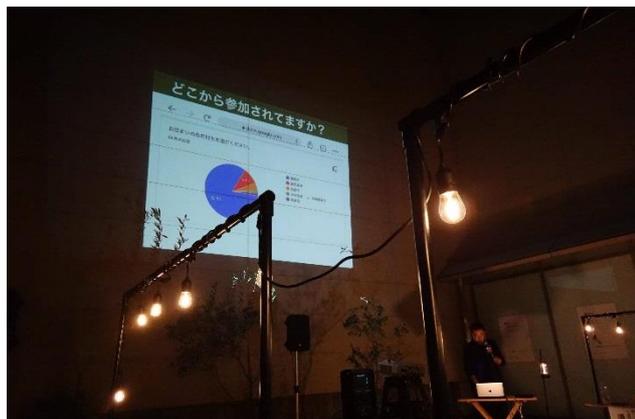
にもできることあったら、ってなる。きっかけのデザインというのを考えていきましょうよ。さっきのヘイベンチあれね、手羽先持ってかええちゃうけどコミュニケーションが生まれる、そういうことだと思います。

松枝) その店も妻の同級生の店でして、私も地元の家建てて霧島市内なんだけど移住した形。自治会に入っているいろんなことに参加すると、おじいちゃんとかにいろいろ教えてもらったりにして勉強させてもらってます。今のアドバイスをもとに活動していきます。

須部) お二人ともいい質問ありがとうございました。きっかけ作りってヘイベンチみたいなあんなきっかけでいいと思います。コミュニケーションのリデザインですね、コミュニケーションをどうとっていくかを戦略的に考えていくといいかもしれません。続きまして私のほうから霧島を一緒に作りたいという今回の戦略会議の目的とかプロ



ジェクトについて話をしていきたいと思います。みなさん一回は読んでいるかもしれませんが、ここにすべて書かれています。～「霧島を一緒に～」～。大島さんが言ったこともそうですし、宮之原さんが言ったこともそうですし、私がお伝えすることも凝縮するとすべてここにあります。素晴らしいメッセージを作りましたね。なぜ皆さんここにいらっしゃるんでしょうか。おそらく皆さん事前にアンケートとらせていただきましたけど、このまちはこのままでいいのかというようなことを誇りとして持たれている方がほとんどだと思います。暮らしを豊かにしたいとか自分たちでまちをつくれぬものとかか皆さんの中にあるんだろうと思います。一番多かった参加動機って何でしょうか。一番多かったのはまちづくりに参加したいと書いてくださったのが8割くらいいらっしゃいました。みなさんこの場にどんな人たちがいるかっていうと会社員、公務員、で自営業の方が意外と多いんですよ。会社役員、経営者の方を入れると30名くらいの方が自分で商売をされているんだなということで驚きました。あと学生とか教育関係の方とか、不動産オーナーとか。今この場にそういう方たちがまちづくりしたいということで共感しあっているんだなと。この戦略会議どうやって知りましたかときくとやっぱり、口コミみたいな。宮之原さんのTwitterとか。すごいですね。Twitterよりも口コミがこのまちは知る機会が多いのかなと思います。やっぱりつながっているんだと思います。つながっているけど一緒にしたことはないという仮説があげられるかもしれません。どこから参加されているかというところ



ろですが霧島市、鹿児島市、始良市。で京都市からお見えになっている、あとで懇親会参加いただければと思います。参加者の年代をみると10代は少ないですが20代 17.2%、30代 35.9%、40代 23.4%、50代 15.6%ということで若い方が多いですね。若者がまちづくりに参加したいと思っているということです。さらにここに参加してもいいですかという75歳の女性もいらっしまったみたいです。まだまだまちづくりに参加したいということで電話があったそうです。というわけ本題に入っていきたいんですが、これ霧島市の写真です。今週2回きています。先週の4連休もこちらに来ました。神社参りが好きなので神社回って秋分の日だったので、秋分祭があって霧島神宮で朝の10時からお参りすると一番上のところで巫女さんが秋分祭ということで踊っているんですね。すごく神々しくて。知ってる人あんまりいないかもしれないんですが観光名所になるんじゃないかと。神社7か所くらい行ったんですけど、珍しい神社もあって北辰神社というところなんです霧島にあって神様がいうとアマテラスよりも上の神様を祀っていたり右手側の祠はパワースポットになっていたり、でも地元の人あんまり知らないんですよ。そういうのが隠れているんじゃないかなと。今日も大島さん来て街歩きをしたんですけど、横川、溝辺、小浜に行ったりしましたけどいい景色がありました。みなさんこの写真を見てあそこだ、と思われるのがどれくらいあるか。それくらい自分たちのまちを知らないのかもということがある。そういう意味での宝探しを自分のまちでしてみるのはいいかもしれない。大島さんからもありましたけど今ある資源、みなさんが素通りしているかもしれないまちの風景を活用して、かつ地域社会の問題がありますがみんなで一緒に解決していくということ。そのなにかこの会議でスタートするかというと、民間が主導で行政と一緒にやるということです。行政がこういうまちにしたいという構想を民間と一緒に考えてかつここにいるみなさんと自分たちが暮らしやすい、楽しいと思えるまちをつくっていく、ということから始めるのがこの会議の目的です。まちづくりの登場人物はここにいるみなさんです。委員だけ皆さんの代表であってここにいる行政も民間も関係なくみなさんで作り上げていくというものです。リノベーションまちづくりのポイント大島さんからもありましたけど実現可能な人と組織があってこそその構想となりますからここにいる委員のみなさんと半年間かけてこういったまちにしたらいんじゃないかと議論していったプロジェクトとして実現していく。今まで霧島市ではなかったことです。いくつも社会課題があります。人口減少によって空き家もあります、都市課題を解決する新しい政策、どういった政策で良くしていくのか空き家を減らすのか、コミュニティをつなげていくのか。行政だけではなくて一緒になってやっていこうというのがリノベーションまちづくりの会議の目的です。どんなまちにしたいかというのは、これから8人の委員の皆さんがいますから。みなさんこちらからお話をかけさせていただいて一緒にビジョンを作っていきます。どんな課題を解決していくかということもみんなで議論してコンテンツ、プロジェクトみたいなことをやってやってみましょう、楽しいことをやっていきたいと思います。今からご紹介しますが、8人の委員の皆さんそれぞれのセクター、IT、農業、大工、まちづくりのお仕事されてたりとかいらっしまいます。中でも私のフィクサーはこの人です。この人がいないとこの場はないし、こんなに月3、4回も来ないですもんね。本気でこの方がこの街を良くして変えたいという思いが伝播して、委員の



皆さんも協力して一緒に足並みそろえて同じ夢を見ようじゃないかということでスタートしました。委員の皆さんと私たちはオンラインでミーティングをしたりしています。東京と鹿児島市と霧島市でオンラインで打合せしたりとか、先月一度だけ市役所でお互いを知りあう語りの場をつくりました。ということでこの半年間かけて構想を作っていく

んですが、プロジェクトを実現していくということになっていきます。来年の1月くらいにはみなさんにお披露目できるんじゃないかと思います。ちなみに国分ではこういった課題があるよね、このエリアをこうしたら実現できるんじゃないかと行政の方とお話をしています。最後に強く伝えたいことが、人なくして地域なし、地域なくして事業なし、ということでみなさんここにお住まいなので人がいないと地域もないし、地域がないと仕事も成り立たないのでこういった観点でまちづくりしていただくといいかと思います。ちょっとリノベーションまちづくりの話が最後しますと、北九州で2013年に参加した時大島さんがいて、私もいたんですが、北九州でリノベーションつくるというのを遊休不動産活用してまちに必要なことを考えてプロジェクトとかお仕事作っていきましょうということを10年以上前から全国で仲間たちがやっているということです。大島さんが先ほど言われたことをずっと言われて感化された人たちが鹿屋であったり鹿児島市であったり、リノベーションをされました。私たちは騎射場で一万人規模のイベントをしています。なぜかというつながりがない地域なので、大学生が地域の人たちとつながっていません。だから当事者意識がない。みなさんみたいにまちづくりしようってことで100人集まることは騎射場でもないん

です。なので、ちょっとでもつながりを作ることが大事だなということで地域の人たちに来ていただくイベントを起こしていこうということで始めました。鹿児島大学に行かれた方はわかると思うんですけど空いている空間をつかってやるんですけど、幼稚園の広場とか公園、電車通り沿いの軒先をお借りして一日だけこういった空間が生まれます。ここに一万人来



るっていうんですけど、半径500mに3万人くらい住んでいるのでほとんど地域の人が来る。そこでつながる。なんでこういうことをやっているかという、つながりがないのでまちづくりしようにもどうにもならない。いろんな課題を解決するためにつながりの中から仲間、チームを作る。イベントの目的はひととなりを作っていくというのが私のしたいまちづくり。一番の特色はイベントに戦略を立てて、なんのためにこのイベントをするのか言語化して、ボランティアのスタッフの方にもこういう思いでやってるんだよということ

伝えてチームとしてまちづくりをしていこうという学生から主婦から地域の方、地域外の方からいっしょになっていく。一番意識していることは子供に地域の思いをどうやって残すかを考えて活動しています。そうすると不動産と一緒にやろうって言ってくれたり移住したいとか空き部屋活用しましょうとか、だんだんまちにたまり場ができて空いているスペースを活用した場ができてきて、ここに出店しましょうということで大家と出店者を結ぶマッチングの機能で誘致するようなこともします。広報もありますから自分たちで宣伝することもできますし、まちに必要なイベントを自分たちでやるようなこともできます。まちづくりは参加するのが一番おもしろいので、今日は参加して聞くだけでしたが発信をしていくと思いますので一緒にやりたいという方がいらっしゃったら一緒に霧島をつくっていただけたらなとおもいます。



**須部)** では、委員の皆さんの紹介をしていきます。有村さんから、工務店かバーベキューかどれが本業かわかりません。期待していきたいと思います。

**有村)** 隼人町の有村といいます。この写真はバーベキューしている様子なのですが、鹿児島スマートバーベキュー協会の会長をしまして、鹿児島県内にバーベキューの週報があるんですがそれを伝えています。本業は隼人の工務店住まいずという会社を双子の弟とやっています。いえづくりしている会社ではあるんですけども、な



んでまちづくり関わっているかというところから人口減っていく中で家建てる人も減っていく、空き家も増えている中で、いい家を建てるのは仕事でもあるんですが、いい住まいを建てたくなるまちをつくるというのを新しいビジョンとしてやらせてもらっています。我々何をしようとしているかといいますと、霧島市の小浜で、隼人国分の中で唯一の中山間地域ですね。人口は600人くらい、自治体は8つ、空き家は150くらいですね。かなり過疎的なところなんですけどいい町なんです。海沿いのところで昔は地曳網なんかしていました。山に行けば棚田があってせごどんのロケ地になっています。魅力的なまちなので本社を移しまして、あと仲のいい会社さんとか新築にはなるんですが、新しい建物を建ててエリアのリノベーションを考えています。空き家の活用もそうですし、高齢者多いので新しい中山間地域の在り方を一緒に考えていければなとおもっています。よろしくおねがいします。

**須部)** 続いて大西さんお願いします。

大西) こんばんは、大西と申します。僕は5年前に神戸から霧島に引っ越してきました、もともと神戸ではシステムエンジニアをしていました。8年前にウェブサイト制作とかの CONAWORKS という会社をやらせていただいています。神戸から引っ越してきたときに、霧島自然が多いし食べ物おいしいし、すごしやすいなという印象で、アウトドアが趣味なので楽しみやすい環境だなと。霧島ライフを堪能させていただいているのですが、自分の職業上誰かに手伝ってもらいたいときにプログラミングとかウェブサイト制作とかできる人たちが少ないなという印象です。これは霧島ではない写真なのですが、子どもとか小学生とか中学生とかに対してプログラミング教室をやって IT で働く人たちが育つような土壌をつくれたらなと。作れたらというとおこがましいんですが、そういう風に考えています。



イメージが伝わりにくいので事例を持ってきたんですが、島根の松江市ここは日本で伝説的なプログラマーの出身地で今も活躍されている方なんですけど、その方を中心に IT のまちとして成功されています。いろんな企業が松江に集まってきたりとか、子供たちのプログラミング教えたりとかして僕がやりたいビジョンの具体的なところなんです。そう思いまして、個人的にも去年になりますけどプログラミング教室を開催しましてどんな感じだろうと思ってトライしただけなんですけども、それでも反響いただきましたのでこういう感じの活動を通して、かつ霧島リノベーションとかけあわせて面白いことができたらと考えています。

須部) 続きまして、3 人目の委員ですね。奥野さんです。先ほど、コーヒーをっていうくだりがありましたけれども、奥野さんよろしくお願いします。

奥野) どうも髭です。こんばんは。ちょっとインスタグラムの冒頭を利用してしまいました。僕の浅はかな人生、カラオケぐらいしかマイク握ったことがないので、ちょっと緊張しておりますがよろしくお願いします。僕このかわいらしいキッチンカーでコーヒーを移動販売をしておりますが、お見掛けくださった方いらっしゃいますか。存じ上げない方いらっしゃれば、ちょっと挙手…。



まあこんな感じで駅前の美容室の、先ほど宮之原さんからご紹介いただきましたけど、空き駐車場、美容室さんが使われていない時間帯でコーヒーを販売するというのをちょっとやっております。存じ上げない方いらっしゃいましたら、ちょっと携帯カメラを起動してもらってもいいですか。シャッターチャンスです。僕のインスタグラムに飛びますんで、ぜひフォローしてくださいませ。すみません、ちょっと好き勝手してしまっ。そうですね、僕はこっちの出身じゃなく、佐賀県出身で工業高校卒業してから、薩摩川内市のほうでサラリ

ーマンを8年ほどやってましたけど、もう、ちょっと仕事に夢を感じられなくなったというか、霧島の、僕の趣味が登山だったりキャンプだったりなんですけど霧島の自然がすごい好きでいつか住みたいなと思ってました。サラリーマンやってる時ももう5年ぐらいつつと魔が差してて、去年ちょっと魔が差し切って、ちょっとこっちに移住しようと思ってやってまいりました。で、全然その親類がいるとか知り合いが多いとかそんなの全くなく、もう寂しくポツンと一人でやってはいたんですけど、まあ、やる中でこうやって楽しい人たちと繋がれてですね、なんか本当にあとから調べたら僕の知り合いは2人だけ、最初来る前は2人しかいなかったんですけど、もうほんとアンパンマンの友達と一緒にですね。人数的には2人しかいない。孤独にやってたんですけど、こんな楽しいことをやってるみんなとこう出会えて、つなげてくださって、ほんと市のかたも情熱的にこう、まちを楽しくしようとしてくださってますんで、その中で僕がこうやって活動させてもらえるってすごいありがたいなと思ってます。こんな楽しいメンバーとまちづくりをしたいっていう観客の皆さんいっぱいいらっしゃるんで、皆で力を合わせて、こう盛り上げていけたら本当にすごい楽しいまちができるんじゃないかなとすごく感じてるところです。ちょっとでもその、霧島のその空いてるスペースを使って、ちょっと僕がワクワクするような空間を少しでも作り出せたらなと思って、日々活動していきますんで、今後ともどうぞよろしくお願いします。好き勝手します。

須部) はい、とてもユニークなコメントありがとうございました。

奥野) ぶっこみました。

須部) 困りますね、あのぶっこむと次の人がすごくやりにくいっていうね、感じにはなるんですけど。まあ、人数多いし、仲良くしていただければと思います。

はい、じゃあ、今、横川で古家をですね、改修して、家屋を作り始めている白水梨恵さんです。よろしくお願いします。皆さん拍手でお願いいたします。

白水) 本当にやりにくいんですけど、私はまじめに横川を暑苦しく語って、去ろうかなと思います。私、今、横川町というところで、築89年の2階建ての古民家をお借りして、カフェとゲストハウスの開業を目指して、古民家改修をしています白水と申します。実は、私鹿児島市出身で、霧島は全く縁のゆかりもなかったんですけども、3年半前に夫の仕事について来て



引っ越してきたみたいな形で、本当に全然知らない霧島という土地に引っ越してきたのが、まだ3年半なのかみたいな不思議な感覚がしています。引っ越し来てから、もっと霧島のこと知りたいなと思って、こういうようなまちづくり系のイベントとかに、いっぱい参加してますね、今の委員の方々みたいな面白い方にいっぱい出会う中で、去年の6月に初めて大隅

横川駅がある横川町ってところに出会いました。もともと私ずっと、鹿児島市の結構、街中のほうで育って、社会人の最初の3年は東京にいたりしたので、ずっと街中にいたんですけど、この横川ってまちにどんどん惹きつけられて、はまっていったんですけど、ついに自分で物件も借りたし、5人家族で引っ越してくるっていう、今ですね…。次行きます。この建物を今、カフェとゲストハウスにしようとしてるんですけども、別でもう一軒自宅用はまた別で借りててですね、二軒横川町に物件をお借りしています。この物件を町の方々と一緒にこうやってDIYでしながら改修をしているんですけども、一見、もう本当にシャッターばかりの駅前通りだったりとか、まちもどんどん過疎化が進んでいくまちなんですけども、私にとっては、もう本当に横川にしかないものがいっぱいあるなっていう風な目で見ています。空港とか高速インターチェンジからのアクセスのよさだったりとか、このまちにしかない自然環境とか、金山っていうのがあるところからきてる歴史と文化とか、なんかこう横川にしかない、ここでしかできないものっていうのが、ものすごくいっぱいあって、過疎化、過疎化っていうけど、私はこのまちは、これからどんどん違う役割を担っている、多分違う風景があつて5年後には見えるなって、フルカラーで頭の中に思い描きながら、この物件を改修をして開業を目指しています。なんか、こんな感じでちょこちょこ人を集めて、イベントしたりとか、みんなで古民家改修したりとか、たまに古民家で夜な夜な飲んだりとかしながら、楽しくやっております。ぜひ、興味がある方はお声かけください。今日は楽しんでいきたいなと思います。ありがとうございました。

須部) はい、ありがとうございます。本当、横川は今変わりつつあるんで、ぜひ行かれてみてください。はい。徳永さんですね。先週行われた、Love&Basicっていうね、イベントがあるんですけども、今年は関係者だけオンラインだけだと思ってるんですけども、その企画、首謀者といえますか、主催の一人です、徳永さんです。皆さん、拍手をお願いします。

徳永) 皆さん、こんばんは。霧島市溝辺町で生まれ、県外出て、Uターンで霧島に帰ってきて、今霧島市溝辺町に住んでいるんですけども、本業は建築業をしております、ものづくりでお家だったりとか、お店の設計・施工をしているんですけども、溝辺の地域活動として溝辺の地元の異業種のメンバーでみぞべるというグループを作ってですね、自分たち



が住むまちをどうにか楽しくして行って、次の子供たちに引き継いでいこうという思いで、いろんなイベントとなんかをやってるんですけども、これ霧島市の西郷公園って知ってますかね、西郷公園。僕らの父たちの世代が建てて、その当時は、お金を取って集客も多かったんですけども、今僕らが帰ってきて、最近はなかなか使われる機会もなくて、今無料になって、そういう場所、溝辺のメンバーでどうにかまた復活して人が集まる場所にできないかなということをやったこれが、せごどんでないと、といって、名前がダサいんですけども、もう一度とにかく地元を盛り上げようという有志があつまって、やったイベントです。これ

も 300 人くらい集まってくれて、僕らの親世代から僕らの子の世代まで縦のつながりができたいイベントだったと思っています。先ほど紹介いただいたのが、これが Love&Basic っという今年が 6 回目になるイベントなんですけれども、溝辺町の限界集落、竹山という集落、9 世帯しかない集落にある森をどう使うかと、あと地元、限界集落をどうやって盛り上げていこうかっていうのと、あと森の在りかたですね。森の楽しみ方を、親世代とまた子供の世代に伝えていけたらいいなということで、音楽と食とワークショップ、ものづくりなんかを含めたイベントをさせていただいております。そして、僕らみぞべるというこのメンバーはですね、この溝辺に拠点を置いてこんないろんな遊びとか活動してるんですけども、溝辺ってというのがぼくらの周りでこれ竹山ダムっていうダムなんですけども、他にも本当素晴らしい、いろんな場所があって、今その、みぞべるのメンバーでもこの竹山ダムを使って何か面白いイベントができないだろうかとか考えて、それをみんなで形にしていって、人と人のつながりを形にしていってる感じなんですけども、ぼくがやりたいのはですね、これもですね、これは溝辺町の市営団地なんですけども、この市営団地も空き家が多くてなかなか利用価値が減ってきているような現代社会の中で、今回こういう行政の方々と付き合っていく中で、なにか使えたらいいんじゃないかということでみぞべるのメンバーといろいろ話をしながら、形にしていきたいなとワクワクと模索しているところです。私が思うに、この 1 市 6 町なんですけども、その繋がりがっていうのがなかなか、この溝辺は溝辺でつながってるんですけども、それはそれ以外の町と、なかなか繋がるってことがないので、こういう僕らがやってる、みぞべるというようなメンバー、ほかにも多分いろいろあると思うですよ。そういうメンバーと繋がっていきながら、霧島市の面白いところをどんどん発掘していって、イベントだったりとか、まちづくりと一緒にこう、1 市 6 町でやっていけたらいいんじゃないかなと思っています。だから、皆さんにいろんな面白い意見を取り入れて、みんなで形にしていければいいなと思っています。今回のこの集まりでも面白いメンバーがたくさん集まっていますので、皆さんと一緒に何かできていければいいなと思っています。よろしくお願いします。

須部) ありがとうございます。続いて、日永田剛さん。

日永田) こんばんは、霧島に来て 14 年、会社員をしています。先ほどあったぺちやくちゃナイトっていうのは霧島に住んでいるすごい面白い人いっぱいいるんですね。山の中に仙人みたいな人いて面白いことしてるんだけど、皆に知られてない

ところがあって。そういう面白い話を聞ける場を提供しています。これは先月この委員で



ワークをやって委員がひらめいたっていうので今回のビジョンとしてできたので共有したいなと思っています。テーマと名前がコーミンカン 2.0。コーミンカン は公民館と古民家をかかけたもの。2.0 は次世代型というところです。テーマとしてはみんなが利用できて持続可

能でクリエイティブな場所にしたいなと思っています。見にくいんですけど真ん中の黒枠が前回のワークで書いたラフな絵なんですけど、ハコが古民家とか使われていない店舗とかをベースにしています。みんなが利用できるといったところで、親しみやすい、入りやすい、統一したようなロゴですね。大島さんの話があったのでああいうイメージなんですけど、カッコいいロゴがあって、一か所じゃなくて霧島は広いので旧市町の点在するようにして。子ども食堂とかあんなイメージでここだったらいいんだという場所があったらいいなと思います。店舗とかお金かかるんですけど、空き店舗とか古民家を使ってそれをハコにして。古民家にはいい木材とか眠ってますのでそういうのを自分たちで使って家具作ったりとかして低予算でできるような場所がいいかなと思っています。あといろいろキーワード書いているんですけど、

そういった場でいろんな趣味持っている人が集まって教えあったりとか。こういうのっていろんな市とかで例を見るんですけど持続していくのが難しいという課題があるので、ITとかの力を借りて自分もIT好きなので運営費を最小にしてその辺にいるおじさんがたまり場にしてくれて代わりにここにずっといてっていうのをお願いできたり。最初に投資して太陽光とか安くなっているんで、みんな100円置いていだけで運営できるのかなと思います。旧市町で点在するけどつながっていて結束できたり、というのを次世代という意味で2.0にしています。そういったワクワクするものが作れたらいいなと思っています。以上です。

須部) 次増田さんです。時期産業革命家じゃないかと思っています。

増田) 皆さん、こんばんは。増田泰博と申します。

私、マルマメン工房という屋号で大豆とか麦と稲作やってる農家なんですけども、10年目に移住して、写真はですね、今痩せてる写真を、ここ何年とこの痩せてる写真を出し通してるので、どこ見ても多分この痩せてる写真しか出てません。僕よく勘違いされて、本人じゃないと思われがちなんですけども、皆さんこの写真で



覚えてもらっても結構です。多分、この今寄せにかかっているんで、そのうち痩せるとは思いません。僕はですね、10年前に霧島に勝手にやって来たんですけども、それであの住み着いて、NPO法人でちょっとお仕事させてもらうことがあって、その中でやっぱりこの地域で暮らしていくんだしたら、自分の土地を、住む場所を守るって意味で農家をするのが一番かなと思って今も農家をやらしてもらってます。農家っていうか景色を作る自然、これを霧島神宮の田植え祭なんですけれども、景色を作ることが農家の役割と環境の保全というのもあると思います。僕はこのリノベーション会議でですね、さっきも和田さんと松枝さんが大島さんに質問されてたと思うんですけど、やっぱりあの山間部ですね、人がいなくなってくるっていうのが、すごい切実な現状なので、僕はこの小さいコミュニティで回しつつ、中央部と山間部、山間部と山間部という、世代を超えた縦のつながりも作りながら、そういった横のつながりも作っていったらなと思って、僕は役割を今後していけたらなと思ってます。僕も今年

度中には、自分の今自宅のところを改装してですね、販売スペースと加工場を作る予定なので、松本さんとこの近くに、松本さんとこのワンスリーコーヒーさんもありますんで、ワーキングスペースと一緒に何か今後もやれたらと思いますので、ぜひ皆さん何かの時は声をお掛けください。どうぞよろしくお願ひします。

須部) はい、ありがとうございます。最後、トリを務めますのは、霧島の IT・EC 業界の神と呼ばております…。

松本) やめてください。

須部) ワンスリーコーヒーというカフェもしております、松本さんよろしくお願ひします。皆さん拍手をお願いします。トリなので、いいこと言って締めてください。

松本) いいこと一言も言えないですけど自己紹介させていただきます。松本と申します。私が 10 年前に霧島に来ました。きっかけは霧島にある会社で働きたいと思ってきたんです。なんとなくでそのとき来たんですけど 10 年たって今霧島にどっぷりつかってしまうと想像してなかったんです。そのきっかけが今から出てくるんですけど、私が今やっている会社がローカルをもっとおもしろくというスローガンで会社をやっています。おもしろくという定義が、おもしろい仕事が、場所が霧島にあったらいいなという、会社になっています。ネット通販を専門としてウェブ制作やったり IT のシステム構築をしています。そんな会社なんですけどももともとはこの 1 軒から始まりました。昭和 51 年に建てられた古き良き時代のおいがるようなドライブインに使われていたラーメン屋さんを自分たちで新しい形を作り出して新しいコミュニティの場を作りたいというところで改装しました。お金もなかったんで今やっているメンバーに家族を連れてきていただいて、みんな 1 か月で終わるかなと思っていたんですが気が付けば 4 か月間かけてやっとできたのが今のワンスリーコーヒーです。こうやって遠目で見るときれいに見えるんですが、中に行くと手あかがあったり塗り残しがあったり。味としてとらえて楽しんでいただけたらと言ひ訳しています。こうすることで起きたことがいろんな人が集まってくれるようになりました。こうしてインスタに写真をあげてくれるだけでなく、宮之原さんとか委員の方とかマンションの一室で仕事していたら出会わなかった人たちとこの場を作ったことで出会えたんですね。これが僕の人生を大きく変えて霧島にどっぷりつかるとなりました。EC オタクの松本がこんな場に座っていて本当に場にあっていないんじゃないかなとおもうんですがお役に立てることがあれば頑張っていきたいと思ひます。



須部) 会議のまとめということでまず大島さんから一言いただきます。

大島) 初めてでない方もいらっしゃるんですけど、霧島市の各地域から集まってきていただいているんだなと思ひまして。やっぱりみなさんビジョンを持ってますよね。仲間を持っているということも共通していることなんじゃないかな。変人がいるんだとかそういう話を聞いてたんですけどほんとに変人がいて山からきた仙人が座ってたらどうしようと思ったんだけど、全然そんなことはなく。中山間とか集落とか歴史とか産業の側面もあったり、皆さんバリエーションのあるビジョンを持った、おそらくまちづくりとも思っていないかもしれないけど仲間が集まるということはこのまままちづくりつながっていくんだなと思っけてワクワクしました。

須部) ということで会議のまとめをしたいと思ひます。私のほうから一言いいますと、宮之原さんからもらいましたけども、まだ霧島市って生まれてから15年しかたっていない。一市六町が集まっているので、広さでいうと東京と同じくらいの大きさなんです。ものすごく霧島広い範囲でありますし、違う文化の街が集まっているのでおそらく最初霧島市が生まれたときはいいこともあれば弊害もあったかと思ひます。いろんなことが15年前起きたのかなと。15年たって一緒に何かをすることはなかったよねというのが委員の皆さん共通の言葉でした。逆を言うとも15年たった今だからこの霧島市が一丸となって民間も行政も関係なくまちを作っていくというスタートラインに立ったんじゃないかなと思ひました。この委員の人はエリアのキーマンにお声をかけさせていただいてこれからリノベーションまちづくりとして霧島市の戦略を作ってプロジェクトとして丁寧に起こしながら実際に実現していこうというプログラムになっています。その中にはみなさんに参加していただきたいですし、みなさんの声も拾い上げていきたいと思ひます。お披露目は1月を予定していますがそれまでに会議を開いてSNSで発信したりお声かけさせていただいたりあると思ひます。自分の街なのでみなさんののしんでいただけたらと思ひます。お疲れさまでした。



グラフィックレコード  
 戦略会議参加者  
 田代明歩氏 作